

〈翻訳〉

アメリカン・ボード宣教師文書

——同志社女学校女性宣教師を中心として——

〈M. F. デントン書簡一訳および註一〉 (13)

阪上敦子 監訳

竹田清子

吉岡弘子

小島紀子

矢吹世紀代

柿本真代

大下公子

小林弘美

書簡翻訳：前号からの続き

〈デントン書簡 D-53〉【竹田、阪上、吉岡、小島、矢吹、柿本、大下 訳】

京都 同志社女学校

1915年10月2日

この手紙をお読みになる前にケリー博士¹宛の

そちらからの1915年3月4日付の手紙をお読みください。

拝啓 バートン博士²

〔宮川に対するデントンの同情〕

敬愛する私たちの幹事〔バートン博士〕からお手紙を受け取るたびに、

すぐにお礼を差し上げたり、その手紙のことで時折ご相談したくなります。また、ここ〔日本〕で何か事が起こると、いつも博士とお話したくなります。この両方の理由から、宮川氏³が最近受け取った書簡のうち何通かを生徒の一人が書き写したものをここに同封いたします。きっと宮川氏のことをとても気の毒に思われるでしょう。氏の神学はあまり現代的とは言えませんが、この問題は私たち全員にとって大きな試練であり、彼を支持しています。

〔ジェームズ家の支援〕

今年の夏、中瀬古先生⁴がバートン博士に会えず残念でした。ジェームズ氏⁵はご親切にも先生のシアトルでの科学会議出席や、ニューヨークの病院や研究所の訪問を可能にしてくださいました。〔母上の〕ジェームズ夫人⁶は東京の小崎氏⁷の教会のために、中瀬古先生に5,000ドルを渡されました。ジェームズ家では、新聞などに彼らの贈り物の記事が載ることを決して望んでおられませんので、どうぞこれについては報告しないでください！

〔私立の同志社にも官立学校並みの手厚い支援を期待〕

9月1日付のそちらからのお便り、そして烏丸通りと今出川通りの角にある京都の所有地に対するボードの権利をYMCA⁸のために同志社に譲渡してください、というお知らせに心から感謝申し上げます。名目上1,000ドルもミッションに請求されたことは残念です。純粋に贈り物としてその土地を受け取りたかったです。同志社にYMCAの建物を寄付してくださいるように、ボードからどなたかにお口添えいただけないのでしょうか。

京都の官立学校では寄宿舎や堅固で設備が十分に整ったYMCAの建物を建ててもらいました⁹。どうして同志社にもそれに相当するものを貰えないのだろう、と思っている人もいます。バートン博士、どうぞこの件を然るべき方に問題提起してください。モット氏¹⁰はいつも同志社を大切に思っているし尊重している、と言ってくださっていますので、私たちの窮状をお知りになったら、きっと助けてくださるのではと信じております。今やボードは土地を私たちにくださいましたので、建物も、と期待してはいけなないでしょうか。

【同志社の発展は出張伝道地での学生参加の伝道活動から】

同志社の将来は伝道活動にどれだけ力が注がれるかによって決まります。私たちの出張伝道地¹¹での伝道活動は、すべてこの学校から送り出せる男女に頼っています。この手紙を書き始めてから、キリスト教教育会議¹²に行ってきました。同志社の出身者は男も女もどこでも重要な場所にいます。あちこちの教会を訪れても同じことが見られます。会衆派の教会だけでなく、他の教会や日常生活の場においても同様です（現在、国会には7人の同志社卒業生がいることはご存知でしょう）。ですが、我が校の男女卒業生がもっとも必要なのは、この社会や政治的地位のためではありません。必要なのは私たちの出張伝道地での仕事においてなのです。

最近【伝道地から】帰ってきた二人の女性宣教師は、女学生たちに助手になってもらおうとしています。「日本人のクリスチャンに彼女たちは常にとでも受け入れて貰いやすいからです」。(ですが、需要に応じられるほど十分な生徒数には到底及んでいません)そして日本人の牧師なしで、この外での伝道活動をどのようにして運営していけるのでしょうか。

【神学部は同志社の要。教育、待遇などの改善が急務】

同志社神学部をより改善させねばなりません。同志社のどの学部も改善、拡大させねばなりません、特に神学部は同志社の要として、その歴史的地位を保てるように立派なものとするべきです。そのためにも、同志社神学部の教授陣には、他の学部で支払われている給料とせめて同額の給料が支払われるべきです。それが支払われていない今、そして将来「同志社精神」を持ったこの教授たちがなくなったとき、この仕事に就く若者がこの教授たちと同様に、自らを犠牲にして働くとは思えませんし、なぜ神学部の教授陣だけが法学部や他の学部の教授よりも、自ら、そして家族により多くの犠牲を強いなければならないのでしょうか。

神学部教授は他の学部の教授よりも出費がかさみます。人をもてなす費用は他の教授たちよりずっと多く掛かり、書籍も高価で、他の学部の教授たち

が必要とする書籍のように、どこの図書館でも借りられるようなものではありません。また、彼らには寄付の依頼が非常に多くきます。私たちの神学部の学生の数を比べてみてください。世界中の神学校の中で、このような少額の資金で、こんなに多くの学生を教育している学校がどこにあるでしょうか！同志社のどの学部も必要な多くの寄付を得られますように、どの学部も、そして何よりもまず神学部が大きく強くなるためのお金が与えられますように祈っています！

理事会の多くの会議は私の家〔デントンハウス〕で開かれてきており、少額で必要な仕事をしようとするとうんざりな気が減入ることになるか、私には分かっています。理事会の理事たちは、いつも年末に直面せざるをえない負債の補填のため、ほとんど毎年自腹を切っています。我が校のどの学部にもそちらからの手堅い支援が必要です。でも働き手がないのにどうして伝道活動が続けられるでしょうか。また、立派な神学部を維持するため、バートン博士が支援の手を差し伸べてくださらなかつたら、どこからその働き手を調達するというのでしょうか。

〔神学部の人材不足〕

アメリカン・ボードはミッションの伝道事業構築のため、神学部にもっとも有能な人材を与えることで、他のどんな方法よりも多くの力を注いでくださっています。外での〔伝道の〕仕事と学校の仕事の両方に人材が得られない場合、神学部に一人を提供してもらうことは伝道地の二人に相当する値打ちがあると思います。日野氏¹³に追加給与として300ドルを増額すべきであり、なぜミッションは聖書の教え方を知っていて聖書を教えたい宣教師が欲しい、という原田社長の強い願いを支持しないのか、なぜ無視できない声を上げて強く迫らないのか、私には理解できません。

バートン博士、ここに出向いてこの学校に1カ月滞在してください。この1,300人以上の学生を御覧になって、私たち教員の微力のせいで、学生たちがキリスト教教育をどれほどまともに受けることができているのかを分かっ

てください。そうすれば博士は祈りにより、きっと天と地をひっくり返し、ここ素晴らしい実験場〔同志社〕で神の仕事をしてくれる人材を全力を尽くして探し求めてくださると確信しています。神の国「地上」の隅々までその仕事を担ってくれる、現在学生である男女を育ててくださる方と与えてください。同志社が日本のためにどんな貢献をしてきたか、どんな可能性を秘めているのか、誰も十分に理解していません。親愛なるバートン博士、どうか同志社の神学部を世界で最高のものにしてください。

〔日本の神学部の資金不足〕

我が校の卒業生たちが皆、財政支援を終始続けていることをご存知のことでしょう。女学校の卒業生たちは学校の運営費として、時には1年で600円以上を納め、政治経済部に関しては、男子の卒業生たちは100万円の資金集めを目標にしています（ゆっくりではありますが、着実に前進しています）。世界のどの学校を見ても、神学校ほど特定の志願者しか募れない学校はありません。そして日本では他の世界の国と比べても、その志願者の範囲がより小さく、財政的にも貧しいのが現実です。その上、西洋の神学校は一般信者が〔資金的に〕面倒を見えています。他の方法ではボードに貢献したくないと思っている信者たちに、神学部のために早急に今私たちが必要としている募金をアピールできないでしょうか。

事実上、教育の手が差し伸べられていないこの大勢の学生のために、実際に働けたらと思います。1,300人の〔教育が必要な〕男女がすぐ手近にいる出張伝道地〔同志社のこと〕が他のどこにあるでしょうか。これだけ多くの学生の能力を余すところなく向上させるには、今いる人数よりも、より多くの人材〔指導者〕が必要です。そのニーズと将来性をどうお伝えすればいいのでしょうか。

〔女学校や同志社全体にチャペルの必要性を訴える〕

全生徒が集まれる礼拝堂がありません。女生徒は礼拝堂がないので体育館に集まって朝の祈禱会を行っています。折り畳み椅子を使い、朝の祈禱会や

その他、全体集会が終わった後にはめいめいが椅子を畳み、体育の授業時にフロアを空けるため、椅子を壁に立てかけているのです。こうした状況で、生徒たちに神への畏敬の念をどこまで教えることができるでしょうか。女学校には小さなパイプオルガンのある小さなチャペルが必要です。霊的な生活をそれ以上しっかりと育てるために、これ以上重要なものが他にあるでしょうか。私たちには立派な YWCA¹⁴や同じく立派な WCTU¹⁵という組織がありますが、そこには活動するための部屋がありません。

聖書の学習では今リバイバル¹⁶が起っています。50人の女生徒が自主的な聖書研究に自発的に参加し、7人の上級生がこれらのクラスを進んで教えています。通学生が着くといっぱいになりそうな私たちの家¹⁷で、YWCA や YWCTU¹⁸が毎週の集会を行えるような部屋を見つけることは、まるで幾何の問題と同じです。2つの団体が同時に同じ場所を占有することはできません！正午になると体育館は体操教師が使うのでその間は何もできません。4時以降は、季節によっては暑すぎるし、他の季節は女生徒が帰宅するには暗すぎます。女生徒のためのチャペルの必要性は切実ですし、YWCA や YWCTU の建物も同様に必要です。

卒業式や大規模な講演会、総会などのあらゆる重要な行事では、男子校でさえも代表者しか送れません。全体で使う礼拝堂がとても狭すぎるのです。この偉大な学校を支援していくには、立派な礼拝堂がどれほど必要であるかは言葉で言い表せないほどです。美しくあってほしいですが、大理石での建築やステンドグラスでの装飾ではなく、場所、つまり神の栄光のために分けられた空間が必要なのです。ああ、この学校がいかによばらしいものか、これまでキリストの教えを日本に伝えるために何をしてきたか、そしてこれから何ができるのかをバートン博士にお伝えできればいいのですが。

〔資金面だけでなく人材面でも援助を期待する〕

年々、原田社長¹⁹が霊的な面でも、能力においても社長としての重責の職務にふさわしく成長されているのを見ていますが、キリスト教の大学として

取り組まなくてもいい状況と格闘しておられるのを目の当たりにしています。

日本のキリスト教徒は多額の寄付をしてくれており、いまやどれくらいか私にはわからないほどです。京都のこの立派なYWCAは京都の教会によって運営されていますが、教会に大きな財政支出を引き起こしています。今進められているこのすばらしい伝道キャンペーンは、進むにつれ、ただ一筋の信仰の光を見出した若い男女をどんどん同志社に入れていきます。ますますこの学校に入学してくるでしょうが、私たちはほとんど何もしてあげられないので、学生たちは失望することになるでしょう。あらん限りの指導者が必要ですし、これまでお願いした以上の様々なものがが必要です。そしてボードが同志社に使ってくださるすべての資金は、あらゆる出張伝道地での外での伝道事業の大きな助けになることでしょう。

京都の官立大学²⁰には素晴らしいYMCA会館があり羨ましいです。有給の日本人の秘書がいて、アメリカの学校を出たばかりの青年たちがYMCAの寮か、自分で借りた家に住んでおり、周りの男子学生を集めてバイブルクラスを開くなど、学生のためにできる最善を尽くしています。この[同志社に入学する]学生たちのために、あらゆる機会を十分活用できるこのような働き手を得られるように祈っています。

この長い手紙をお許し下さい。思うままにただ書き綴りました。もっともってお伝えしたいのですが、ここまでもお読みにならないのでは、と心配しています！バートン博士が祈りに満ちた深い関心を持ってくださっていることに、原田社長がどれほど感謝されているかをお伝えしたいです。社長がアメリカン・ボードや博士にどんなに誠実であるか、同志社に寛大にも寄付をくださった方々すべてに対しても誠実であるか、また学校への寄付金をどれほど慎重に祈りを込めて使っておられるかもお伝えしたく存じます。同志社の益々盛んになる活動を継続していくために、追加の寄付金が多めに必要であるか、いくら述べても言い足りません。学校がその可能性の半分でも満たすだけの資金を持っていたら、と思います。

3月4日付のそちらからのお手紙²¹は、私には靈感を与えるものであり慰めでもありました。心の底からお礼申し上げます。バートン博士がどのような重荷を負わなければならないか私には分かっていますので、大切なお仕事をされる時、[神の]祝福やお助けがありますように祈っております。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. ケリー博士は Otis Cary (1851-1932) のことで、1878年アメリカン・ボード宣教師として妻と来日。1892年より同志社神学校教授をしていた（ケリー一家については『アスフォデル56号』、p.209の註10、及び p.229の註11を参照のこと）。
2. Barton, James Levi (1855-1936) 米国バーモント州シャーロットでクエーカー教徒の家に生まれる。1881年ミドルバリー・カレッジ卒業後、ハートフォード神学校へ進学。1885年、海外伝道に関心を持ち宣教師として妻とトルコへ向かうが、7年後、妻の病のため帰国。1894年 N. G. Clark の引退を受けてアメリカン・ボード本部事務局の海外担当幹事に就任。
3. 宮川経輝 (1857-1936) 熊本県出身。1872年、熊本洋学校入学で L. L. Janes から洗礼をうける。卒業後、「熊本バンド」の一人として同志社英学校に入学、第一期生となる。卒業後、同志社女学校幹事を経て大阪教会牧師の職を43年間果たす。日本組合基督教会会長などの要職に何度も就き、海老名弾正や註7の小崎弘道と共に「組合教会の三元老」と呼ばれる。
4. 中瀬古六郎 (1870-1945) ハリス理科学校卒業後、Arthur James の庇護を受けて、ジョンズ・ホプキンス大学・イェール大学院に学び、帰国後は同志社で長年教員を務める。女学校の教頭、校長となって、女子教育の高等化に尽くす。理学博士。日本における科学史研究の先駆者。
5. James, Arthur C. (1867-1941) ジェームズ夫妻の次男。アーモスト大学卒業。個人としては中瀬古六郎を援助。同志社のアーモスト館始め、男子校のために巨額の寄付をした。
6. James, Ellen Stebbins Curtiss (1833-1916) 1911年、息子アーサー・ジェームズと連名で10万ドル(当時の日本円で約20万円)を女子部指定で寄付。1913年、ジェームズ館の完成へ繋がった。最初に1909年には平安寮新築のため、女学校に1万円弱の寄付も行っている。1907年に亡くなった夫 Daniel Willis James (1832-1907) から莫大な遺産(4,000万ドル)を相続したが、夫の慈善事業に対する精神をしっかり受け継ぎ、女子教育や各方面に寄付を行った。
7. 小崎弘道 (1856-1938) 熊本県出身。熊本洋学校在学中にキリスト教と出会い、

- 受洗。同志社英学校卒業後、のちの靈南坂教会、番町教会を設立。1890年4月から7年間、新島の死後、第2代同志社社長を務めるがアメリカン・ボードとの関係悪化による学内の混乱で辞任。後半生は靈南坂教会牧師として、またキリスト教界の指導者として活躍した。日本でYMCAの設立に尽力した。次の註8も参照のこと。
8. YMCA キリスト教青年会 (Young Men's Cristian Association) の略。1844年、George Williams (1821-1905) ら教派を超えたキリスト教青年たちによってロンドンで青年層への啓蒙と生活改善事業のための奉仕組織として創立された。日本では1880年(明治13年)、青年牧師有志により東京YMCAが発足した。初代会長は小崎弘道である。そしてYoung Men's Christian Associationを「基督教青年会」と訳したのも小崎である。これが「青年」という語の発祥である。
 9. “the Government Schools in Kyoto” とデントンは複数形で書いている。国立、公立も厳密に区別せずに言及しているようだ。ここでは京都市左京区の同じ敷地内にヴォーリーズ (William Merrell Vories, 1880-1964) が設計して1914年に着工した3つの建物を指すと思われる。京都大学学生YMCA会館(現在の京都大学YMCA地塩寮)、京都府立医科大学YMCA会館(現在の京都府立医科大学YMCA橋井寮)、そしてもう1棟は日本基督教青年会同盟学生部関西駐在主宰の住宅である。京都大学YMCA会館は1999年に国の登録有形文化財に指定されている。註20でもこれらの建物に言及している。
 10. Mott, John Raleigh (1865-1955) コーネル大学在学中に献身を決意し、YMCAの働きを中心に、世界の学生キリスト教運動や世界教会運動の指導者として活躍。1910年、エディンバラでの世界宣教会議で中心的な役割をする。合計10回来日し、1896年には同志社で6回演説、同志社キリスト教青年会の設立を大いに支援した。1929年、日本政府から勲一等瑞宝章受章。1946年、ノーベル平和賞受賞。
 11. 出張伝道地 (Outstation) アメリカン・ボード本部から日本に派遣された宣教師は、地方の各伝道拠点 Station に所属し、そこを活動現場として働いていた(デントンの場合はKioto Station所属)。そしてその Station から出向いて、現地の助手などと共に近隣の地域に伝道活動をする小規模の拠点が出張伝道地である。この全国各地の Station を総括したのが日本 Mission である。
 12. Christian Education Rally 詳細不明
 13. 日野真澄 (1874-1943) 山形県出身。仙台の東華学校に学ぶ。のち同志社普通学校に進み、1894年卒業。更に同志社神学校を1897年に卒業後、ユニオン神学校及びコロンビア大学で教会史、哲学史などを学び、1900年BD及びMAの学位を得る。1901年より同志社神学校教授を務める。1918年に同志社を辞し、1919年から神戸高等商業学校で教える。1930年、同志社に戻る。1941年に引退。
 14. YWCA キリスト教女子青年会 (Young Women's Christian Association) の略。YWCAは1855年にロンドンに誕生した。その後、1894年に世界YWCAが設立され、

日本では1905年に創立された。デントンは1910年から1927年まで全国組織のYWCAの委員をしていた。

15. WCTU キリスト教婦人矯風会 (Women's Christian Temperance Union)。1874年、アメリカ合衆国オハイオ州クリーブランドに設立された、主として禁酒の法制化を目的とするキリスト教の女性団体。日本支部として矢嶋楯子が1886年に東京婦人矯風会を組織した。1893年、全国組織となり、日本基督教婦人矯風会となる。デントンはまだ全国組織が完成していないうちに、京都に最初の日本基督教婦人矯風会を設立した。
16. リバイバル 大衆の信仰心が再び活性化する現象、信仰復興を目的とする運動。
17. our house とはデントン・ハウスのことか。
18. YWCTU は日本キリスト教婦人矯風会の下部組織で青年婦人部である。社会人でなく、日本全国の主としてミッション・スクールの女生徒たちを中心に組織され、同志社女学校でも、1898年 WCTU 遊説員パリッシュ来校を機に青年婦人部が結成された。
19. 原田助 (1863-1940) 熊本藩士、鎌田収の次男。1880年、同志社英学校に入学、後に神学科に転じる。卒業の翌年、1885年に按手札を受けて神戸教会牧師に就任。1888年渡米、シカゴ神学校、イエール大学に留学。帰国後、番町、平安、神戸の各教会の牧師を歴任。1907-1919年、同志社第7代社長 (のち総長と改称)。同志社の大学昇格と発展に寄与した。1919年、総長を辞職。1920-32年、ハワイ大学東洋学部の教授に就任。
20. こども前述の3つの建物を指すと思われる。註9参照。尚、デントンが羨ましがったYMCA会館だが、1913年頃から同志社にも青年会館設置運動が起こり、1915年11月20日に新会館開館式を挙行了した (1920年、聖山寮と名付けられる)。
21. この手紙とは冒頭にあるケリー博士宛のバートンの書簡。

〈デントン書簡 D-54〉【阪上、吉岡 訳】

1915年11月22日受領

同志社大学

日本 京都

1915年10月29日

拝啓 バートン博士

原田社長¹から絵葉書²をそちらに送るよう依頼されています。組合教会は奈良大会宣言書³公表の和解20周年を祝ったばかりです。バートン博士も

と一緒にその場におられましたね⁴！ご自身が写っておられるのはお分かりになりますでしょうか。組合教会ではすばらしい総会が開催され、そのあと引き続いて非常に靈感に溢れた教師会が奈良で開かれました。原田社長からバートン博士に絵葉書とメッセージをお送りいたします。どうぞ私宛ではなく、原田社長に受け取った旨お知らせください。

先週、大阪でのスピーア博士⁵の講演は、私が聴いた中で最もすばらしいものでした。バートン博士もその内容を入手して、そっくりそのまま日本についてのリーフレットにされたらいいのに、と思います。太平洋ボードにも同じような内容でリーフレットを書こうと思っています。スピーア博士のように私にも書けるといいのですが！

この度の御大礼⁶の準備で日本中が活気に満ちています。京都は美しいです。外国人に対して親切心に溢れています。御苑内の一番よい場所は御所に見学にくる外国人用に取ってあります。750席については自国の大使館にカード[入場許可証]を申し込むだけでもらえます。報道関係者もよい場所がもらえ、御大礼の数日前に御所などを下見することが許されています。

新島先生が叙位を追贈されるように私たちは切に願っています⁷（新渡戸博士のお父上もつい最近そのような形で授与されています⁸）。奉祝委員会の一連の行事は、この御大礼参観のために来日した外国人への感謝の気持ちを表した詩で終了です（作者には賞金500円が贈られました）。

[11月] 10日にはすべての学校は集合することになっていて、午後3時半ちょうどに、一瞬の沈黙の後、全員で万歳三唱をします！⁹全生徒を収容できるような大きな校舎が同志社にはなく、私たちは屋外でこの式典を行うしかありません。そして雨天時にはもちろん傘をさすことは出来ず、全生徒にとってではないですが、女学生には辛い状況となるでしょう。

日曜日は天皇誕生日です¹⁰。全校生徒が一斉に座る席がないため、必要とされる式典を三度に分けて行わねばなりません。女学校の朝の礼拝を[雨天]体操場でどのように行っているか、今までも申し上げてきました。毎朝礼拝

の終わりに、各々が自分の椅子をたたみ、体操場の側面に立てかけるのです。荘厳な礼拝にしては誠に威厳のない終わり方です。

お分かりのように、私たちには二つのチャペルが必要です。先ず、どのような場合にも1,300人以上の我が校の学生と、少なくとも500人の来客を収容できる大きさのものです。同志社は2,000人以上の人が入るチャペルを持つべきだと考えます。そして女学生たちも！私は、静寂の美の手本となるようなチャペル、ピアノと小さなパイプオルガンがあり、少なくとも500席あるようなチャペルが欲しいです。

このような恐ろしい戦争¹⁾が進行中に、バートン博士に何かをお願いしてよろしいものでしょうか。私には人々にかける言葉もありません。

敬具

メアリー・フローレンス・デントン

1. 原田助 前出〈D-53〉註19参照。
2. バートンなど参加者が写っている絵葉書数葉。
3. 組合教会ではそれぞれの教会の自給・独立に向かって一致・結束する必要性が説かれたが、各教会の自治と全体教会の連帯をいかに均衡させるか、が問題となった。1895年10月22-24日に奈良の菊水楼で第10回総会（通称「奈良大会」）が開催された。開催理由は、①国家主義の台頭、アメリカン・ボードからの独立、新神学の影響などにより、教会内に混乱と動揺があった。②米国から代表団が来日中だったので、彼らと親交を結び、組合教会の信仰に関してでは、海老名弾正起草による「奈良大会宣言」が出された。20年後の今、これを記念して、教会としてお互いを許し合おうと20周年記念総会が奈良で開催された。Nara Creed とあるのは「奈良大会宣言」のことである。
4. バートンは同志社との財産問題などを協議するため、1895年にアメリカン・ボードの代表団の一員として来日。その折、この総会に出席した。
5. Dr. Spear 詳細不明
6. 大正の御大礼。即位礼は1915年（大正4年）11月10日。
7. この11月に新島襄には従四位、山本覚馬には従五位が贈られている（『同志社百年史通史編（一）』同志社、1979年、p.780参照）。
8. ここはデントンの間違いで、追贈されたのは父ではなく祖父の新渡戸傳（つとう）である。同年10月24日付で宮内大臣から「従五位」を追贈されているが、宮内省と

のやりとりは孫の新渡戸稲造が窓口となっていた。

9. この日は午後3時から紫宸殿で天皇が高御座に昇る儀式が30分あり、大正天皇のお言葉のあと、首相の大隈重信の万歳三唱と同時に、日本全国で国民一斉に万歳をすることになっていた。
10. 大正天皇の誕生日は8月31日である。この10月29日付の書簡で、「日曜日は天皇誕生日」との記述から、明治天皇の誕生日、天長節（11月3日）がまだ採用されていたと思われる。
11. 1914-18年の第一次世界大戦のこと。

〈パートン書簡 B-25〉【吉岡、矢吹 訳】

1915年11月13日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

10月2日付のあなたからのご親切なお便りに十分な返事を書く時間が今日はありません。お手紙は封入物と一緒に今手元に届いたばかりです。一つは日本の継続委員会¹宛のピーターズ氏²の手紙の写し1通、そして二つ目は、彼の手紙で取り上げられている問題について、宮川氏³とピーターズ氏宛での何通かの手紙の写しです。

今日の世の中において、神と人から委ねられている義務として、ピーターズ博士が継続委員会への手紙の中で見せているような態度を取ろうとする人がいるなんて、私には悲しいことに思えます。なぜ人は、キリスト教徒が自らの信念について述べた率直な意見に疑義を持つと言い張るのでしょうか。なぜ人は、キリスト教徒の信仰や考え方を、彼らの言葉とは異なる言葉で表現するようにキリスト教徒に強要しようとするのでしょうか。あまりにも残念です。特にここ日本でこの伝道運動が素晴らしい勢いを持っているときに、まさにこのような論争が起きるとは非常に残念なことです。ですが、主がそれを収めてくださると信じています。

さて、同志社についてですが、神学部的重要性について、あなたが少しも言い過ぎたとは思いません。神学教育は、現代の宣教の大きな前進のうねりの中で遅れてしまっているからです。

宣教活動を行っているすべての国で、徹底的な神学教育が男性には重要であることに気づかなくてははいけません。それが私たちの計画であり目的なのです。現在計画中の案が多くあり、この戦争〔第一次世界大戦〕が終わって、再び通常の宣教活動に落ち着いて取り掛かかれるようになったら、少なくともいくつかの計画が十二分を実現される日を願っています。私共は同志社を、原田社長を、更に同志社が日本で行っている素晴らしい仕事を信じています。そして同志社のために擁護して話す機会を逃したらいけません。常に極東で最も著名なキリスト教大学として、また日本帝国の隅から隅までキリスト教を広めるために重要な関係を保っている大学として同志社について話す機会を、です。私は同志社が行っている善き行いが、近い将来、実を結び始めると信じています。先人からの遺産や関心を寄せて寄付してくださっている方々からの大きな贈り物の中で。

メイン州ポートランドでの信徒運動のキャンペーン参加のため、出発しなければなりません。ですので、この手紙は簡潔にならざるをえません。

トルコの状況⁴は比類なきほどひどく、その状況に立ち向かい、必要な仕事を継続するためとアルメニア人の生存者の救出にできる限りのことをするには膨大な時間がかかります。歴史上、民族へのこのような虐殺は見たことがありません。

取り急ぎ

敬具

ジェームズ L. バートン

1. 1910年6月14-23日にエディンバラ世界宣教会議が開催された。世界各地に宣教師を派遣している団体や教会から1,300人以上の代表が集まり、今後の世界宣教に

ついて協議した。そこで取り上げられた、いくつかの協議主題の内、①継続委員会の設置 ②基督教連盟及びキリスト教協議会の発足 ③国際宣教協議会の設置があり、全体の課業となった。日本からの代議員は本多庸一、井深梶之介、原田助などであった。閉会后、前出 [D-53] の John R. Mott が委員長となり、議題を具体化するために①の継続委員会 (the Continuation Committee) が設置され、日本でも1913年に創設が決議された。

2. Pieters, Alexander Albert (1871-1958) ロシア出身、ロシアでのユダヤ人迫害から逃れるため長崎へ渡る。ここで神と出会い、洗礼を受けて姓を Pieters と改める。南部長老派教会の牧師となり、韓国で45年間宣教師として伝道活動をした。旧約聖書を韓国語に初めて翻訳したことで知られる。晩年はカリフォルニア州パサディナに在住。手紙 (1915年9月1日付) を継続委員会会員に送り、宮川経輝が警醒社から出版した『基督と其使命』がイエスの神性を否定しているとして、継続委員会からの除名、及びこの議題を委員会年会で取り上げるように訴えたが、賛同者はほとんどなく周囲からは不評であった。

3. 宮川氏 前出 (D-53) 註3 参照

4. ここでのトルコの状況とは、第1次世界大戦中、オスマン帝国で起こった青年トルコ党政権による少数民族のアルメニア人の強制移住や大量虐殺を指す。特に第一次世界大戦中に起きたものをオスマン帝国政府による計画的で組織的な虐殺と見られ、一連の事件は「アルメニア人ジェノサイド」と呼ばれ、アルメニア人キリスト教徒の多くが虐殺された。この書簡の1915年の夏から秋にはシリア砂漠の強制収容所への行進が始まり、その途中や過酷な収容所での生活で多数のアルメニア人が亡くなり、虐殺は1916年に入っても続いた。

〈バートン書簡 B-26-1〉【矢吹世紀代 訳】

1915年12月4日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

10月29日付のあなたのお手紙は原田社長¹からの絵葉書と共にちょうど今手元に届いています。社長にはお礼の返信をすでに出しました。代表団の他の3人のメンバー²と一緒に写っているその写真では、どれが自分か簡単に見つけられます。もうその方々はすでにこの世にはおられません。奈良で

その写真が撮られた日のことは覚えています。

ニューヨークに向けて出発しますので、この短い手紙を書く時間しかありません。最近はトルコ情勢³のため限りなく仕事を立て込んでいます。解決する目処はあまり立っていませんが、希望は捨てていません。

取り急ぎ

敬具

ジェームス・L・バートン

1. 原田社長 前出〈D-53〉註19参照。
2. 1895年、同志社騒動の折に来日した当時の代表団のメンバーは、この書簡のアメリカン・ボード本部幹事の James L. Barton (1855-1936) の他、本部運営委員会の William. P. Ellison (1828-1906)、ニュージャージー州の牧師 Amory Howe Bradford (1846-1911)、シカゴの牧師 James. G. Johnson (1839-1905) の計 4 名であった。
3. トルコの情勢 前出〈B-25〉註4参照。

〈バートン書簡 B-26-2〉【矢吹世紀代 訳】

1915年12月4日

原田助社長

日本 京都 同志社

拝啓 原田社長

デントンさんを通して、アメリカン・ボード代表団が出席を許された1895年の組合教会全国奈良大会の絵葉書¹をご親切にもお送りいただき、お心遣い厚くお礼申し上げます。

この写真を見て、その代表団で経験した多くのことを思い出しました。あの時に日本に行き、大帝国のすばらしいキリスト教運動に携わる多くの指導者の方々と早くに親交を深める恩恵にあずかったことは、何ものにも代え難

い喜びとなっております。今、目の前にあるこの絵葉書を見ていますと、撮影された日の様々な出来事が思い出されますし、これをお送りくださった原田社長のお心遣いに改めて感謝申し上げます。

重要なお仕事がうまくいきますようにお祈り申し上げます。

敬具

ジェームス L. パートン

1. 絵葉書 前出 [D-54] 参照。

〈パートン書簡 B-27〉【柿本、小林 訳】

1916年4月4日

メアリー F. デントン

日本 京都

拝啓 デントン様

太平洋ウーマンズ・ボードに送られた日曜学校の時間割表¹、及び同志社への天皇陛下のお言葉の写し²を含む郵便物は、同志社の校舎数棟が写った絵葉書³と共に、そちらからのご依頼でここボストンの本部に転送されました。このお蔭であなたに手紙を書く機会に恵まれ、重要で大変興味深い郵便物をいただいたお礼を述べ、男女両方の学校で順調にいくように願っているとお伝えすることができました。

先日、原田社長⁴から同志社はすべての部門で繁栄していると伺いました。当方では男女両方の同志社の部門の収入を増やすために、あらゆる手段を講じていることをお伝えしたいと思います。

今日ちょっと調べてみましたら、あなたが休暇⁵で最後に帰国されてからもう14年も経っていることを知りました。前に休暇を取られてから、そんなに長い年月が経っていることにとっても驚きましたし、休暇をとるべき時期がとっくに過ぎているのに、毎年毎年働き続けているのはあなたにとってよい

ことなのだろうかと思います。

ご存知でしょうが、宣教師が決められた休暇期間がきても伝道地にとどまるなら、ミッションの許可、及び担当医の証明書を得なければならないというミッションもありますし、ボードによっては規則になっています。そうでなければ、時期がきたら宣教師は休暇をとるものと想定されています。アメリカン・ボードにはもちろんそのような規則はありませんし、そのような規則を作るように提案する人もいないと思います。ですが、私の長い経験から率直に言わせていただくと、かなり定期的に休暇をとる宣教師、また純粋な休息のために休暇を取る宣教師、こうした宣教師は最善の仕事をするものです。

あなたの健康状態については何も聞いたことがありませんが、デントンさんがやってこられたような仕事を14年にわたってし続けて、神経や心身の通常の健康を保ち続けることができるのか、と疑問に思わずにはいられません。新しい環境や状況のなかにご自分を置いて、つまり日本の仕事から離れて完全な休息期間を得るには、この夏、アメリカで休暇に入り、少なくとも14ヶ月の間、故国で十分な休みを丸1年間とることが最善ではないでしょうか。私からこの提案をしています、それは本心から申し上げていますし、幹事だけでなく宣教師仲間とのかかなりの経験に裏打ちされたものです。この件について、あなたから存分にお伺いしたいのです。もちろん、この件はあなたにだけ書いています。ミッションの他のどなたにも全くお伝えしていません。

敬具

ジェームズ L. パートン

1. デントンにとって、市内伝道の一つ、日曜学校活動は大変重要であった。早くから市内で複数の日曜学校を運営していたが、これは1916年1月から3月の「博愛社」日曜学校のためにデントンが提案した教案である。初心者クラス・小学生クラス・中学生クラス・中級クラス（中学生クラス以上は男女別）となっている。
2. 宮内省よりのご下賜金のお言葉（原本）、及びデントンが送った英語訳。
3. ご下賜金を記念して同志社で発行された絵葉書。

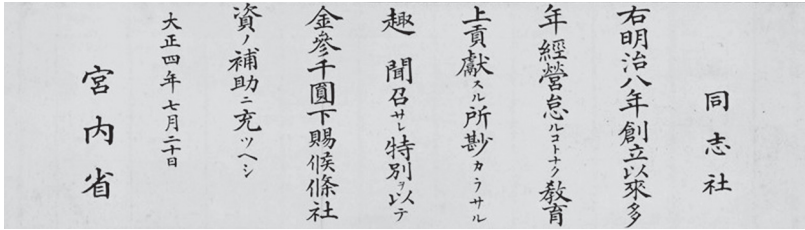
註 1 〈日曜学校の時間割教案〉 原本はデントンの手書き (小島作成)

REC'D MAR 13 1916 The TEACHING PROPOSAL of HAKUAIASHA S.S. 1916 (a)

Month	days	BEGINNERS	PRIMARY	JUNIOR (mas)	JUNIOR (fem)	INTERMEDIATE (mas)	INTERMEDIATE (fem)
JANUARY	9 th	THE	OPENING	CEREMONY			
	16 th	Jacob's dream	The God as the creator	The Repentance of soul	Abraham's call	Jairu(r)'s Daughter	The Mesaiahnic Idea of Jews P.E.
	23 rd	The day and the night	The God as the Father	Paul as the Evangelist	Abraham separates from Lot	Herod and Jesus	Judas Maccabe(a)
	30 th	The good Samaritan	The gift of water	Paul and The turnkey	Abraham delivers Lot	The Five Thousand fed	The Land of our Lord Jesus
FEBRUARY	6 th	The rewards of the friendly conducts	The da(y)ly bread	N. Carey	The destruction of Sodom	Jesus and Phari-sees and scribes	The Temple of Herod the great
	13 th	Review	A proper use of the Gifts	R. Morison	Abraham tempted to offer Isaac	Syrophoenician Woman	Review
	20 th	The Lord feeds the hungers	Noah and his ark	A. Gadsdon	Esau sells his Birthright	Confession of Peter at Caesarea Philippi	Self-restraint
	27 th	Jesus as the friend of the children	Thanks of Noah	J. Lee and M. Whitman	Jacob's Vision	The Transfiguration	The Good Unity
MARCH	5 th	Jesus' love toward the sick child	Israel, saved from the Red Sea	J. Evans	Jacob meets Esau	Who is the greatest?	The Courage of The good conduct
	12 th	A child's love to the Lord	The song of Thanks	D. Livingstone	Joseph's Brothers sell him into Egypt	The young rich man	The develop(ement) of our Nation
	19 th	Review	Review	J. Y. Paton	Review	Triumphal Ent(ary)	Review

Proposed S. S. Course Hakuaiasha 1916 Mary F. Denton

註2-1 〈同志社への天皇陛下のお言葉（原本）〉



(同志社社史資料センター所蔵)

註2-2 〈アメリカン・ボード本部に送った英語訳〉

REC'D Mar 13 1916

Kindly send on
to Dr. BartonDOSHISHA UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

The Emperor's Message.

His Imperial Majesty hears with satisfaction of the continued efforts of the Doshisha since its foundation in the eighth year of Meiji, and as an expression of His gratification in its conspicuous contribution to the development of education is pleased to make a grant of three thousand yen to the institution.

Imperial Household.

The Twentieth of the Seventh Month,
the Fourth Year of Taisho.

註3 〈同志社で発行された天皇陛下のお言葉入りの記念絵葉書〉



Letter announcing the Imperial Gift to Doshisha.

念記会賜下御

(同志社大学図書館所蔵)

4. 原田社長 前出〈D-53〉註19参照。
5. アメリカン・ボードで慣行の宣教師の休暇 (furlough) は東西アフリカ、ミンダナオ、ミクロネシアの5年を除き、通常は7年に一度、1年間の有給休暇が取れた。一般的には伝道地から出発して14カ月の期間で往復旅費は支払われた。休暇中の手当では夫婦には年1,000ドル以内、独身男女には年間500ドルを超えない範囲で支給された (1912年版 *Handbook for Mission and Missionaries* p.55)。

【謝辞】最後に、〈デントン書簡 D-54〉註8の新渡戸稲造の祖父傳(つとう)追贈に関しては、青森県十和田市の新渡戸記念館、角田恵美子氏からご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。